国際・探究通信 第54号

Trinity

2023/07/20(thu)　国際・探究推進部

Let's go overseas ！

期末考査の翌週、「フランス国際交流の説明会」（10日）と、国際総合科２年生の「海外研修旅行説明会」（14日）とが行われました。３年間のコロナ自粛期間を経て、ついにリアルでの海外交流に向けての準備開始です！

桂校長からも、「高額なお金を隣に座っている親御さんが出してくださるのだから、準備を万端に整えて、少しでも多くのことを学んできてください。」と話がありました。

「Let it be 」で学ぶ英語

国際総合科１・２年生では、18日（月）、神戸松蔭女子学院大学から松田謙次郎先生をお招きし、「ポップソングで学ぶ英語」というタイトルで出前授業をしていただきました。この日はビートルズの「Let it be」を“テキスト”に、エネルギッシュな講義が行われました。参加した生徒たちの声を一部紹介します。

＊２年生の先輩方と交流も出来てとても良かったと感じています。そして、英語を歌で覚えるということを教えていただいて、この勉強法も試してみたいと思いました。歌も最初はあまり声が出なかったけど、練習を重ねていくうちに声を出せるようになったことが嬉しかったです。とても楽しい授業をありがとうございました。英語がさらに好きになりました。

＊とても楽しい授業でした。海外の人と繋がるためにも、積極性や海外のアーティストの曲など身につけておきたいと思いました。

＊どんな国の人でも知ってる曲を１つでも知っていたら世界が１つになる感じがしました。大学の先生だから生真面目な感じかと思っていたけど、とても楽しかったです。

神戸松蔭女子学院大学とは昨年度より高大連携事業を進めており、昨年に続きこの夏も「イングリッシュキャンプ」が計画されています。

「5か国語表示看板」

「北播磨で海外に一番近い高校」を謳う本校。海外からの来客者のため、特別教室等の５か国語（日本語を含めると６か国語）の案内板を設置しました。これは、英語、中国語、フランス語を学習する76回生国際総合科を中心とする生徒たちの力と、ドイツからの留学生・小林克海セドリックさん、そして金信志先生のお力も借りて制作したものです。本校を訪れる海外からの方と共に、本校生徒たち自身もこの看板を目にし、何かを感じてくれればと思っています。

三木市国際交流協会「出前講座⑦」

コロナ禍で海外との直接交流ができなかった間、三木市国際交流協会様にご協力いただき、外国人の方との交流の場を地域で設定してきましたが、中でも好評だった、外国人の方に来校していただいてコミュニケーションを楽しむ企画を、今年度も継続して行います（今回が通算７回目。）。

７月13日（木）午後、三木在住のVALENZUELA TELLO Edo（江戸）さん（ペルー出身）、中尾プラパッソンさん（タイ出身）、プービエン・ブンナリーさん（ラオス出身）、アミア・ルワティさん（オーストラリア出身）の４名に本校視聴覚教室にお越しいただき、国際総合科１・２年生を対象に、それぞれの母国の文化について、写真等の資料も示しながら紹介していただくとともに、生徒たちからのインタビューに答えていただきました。

生徒たちは、英語や日本語、あるいは身振り手振りを交えて積極的にコミュニケーションを取り、異文化理解を深めていました。また、本年度から再開する海外研修旅行や外国人のホームステイ受入れ等に向けても、コミュニケーション力を高める良い機会となりました。

《生徒たちの声（抜粋）》

＊女性の管理職の方が日本と比べてとても多いことを知りました。日本はまだまだなんだなと改めて感じました。ですがラオスでは働ける場所が少なく、教師の収入は月２万円だそうです。なので多くの方が、仕事が多く、お給料も高めの日本で仕事をして、たくさん稼いだらラオスに帰る方が多いと聞きました。日本との違いが多くて、聞いていてとても興味深かったです。

＊私が今回、タイの方のお話を聞いて知ったことは、タイの子供は日本語・英語・中国語の３カ国語話すということです。日本人のほとんどは英語と日本語だけなのに、子供の段階で3カ国語も話せることはとてもすごいことだなと感じました。

＊日本の結婚式は一日だけどペルーの結婚式は３日にわたって行われることにびっくりしました。また、日本人とペルー人の共通点は恥ずかしがりやということを知りました。

もうすぐ夏休み。頑張って疲れていたらrefresh、色々出遅れたり積み残したりしていたらrecovery、心機一転、仕切り直しを図りたいならrestart or reset。１学期を振り返り、自分に必要な事を充足させて、「再び」何かに挑むための準備・調整期間として過ごしてください。

ちなみに、以前紹介したように、海外ではこの時期が学校の年度替わりとなる国が多く、また、それらの国々では休暇が長期。アメリカは約３カ月、フランス・カナダ・中国は約２カ月、ドイツ・イギリスは約６週間お休みです。しかも、（年度替わりということもあってか）宿題がない国が多いということです。

「宿題」という家庭学習の基準の存在の是非はここでは論じませんが、夏休み中に宿題がない国では読書が推奨されているそうです。長期休暇中は読書の時間がとれる、読書を通して興味がある分野の知識を深めたり、新たな気付きやモチベーションが得られたりする。という狙いがあるのでしょうね。皆さんの夏休みには多くの宿題があり、希望者は補習も受講しますが、「感想文を書くため」ではない読書も、refresh、recovery、restart or resetの一手法としてお勧めします（もちろん、「読書はそれ自体が目的」が本来の姿ですが。）。

〔国際・探究推進部長　田尻　淳〕